

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第46回）議事概要（案）

日時：令和4年9月1日（木）16:00～17:30

場所：Web会議(Webex)

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
 赤羽専門委員（NTT未来ねっと研究所）、浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、
 岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、児玉専門委員（一般社団法人電波産業会）、
 下地専門委員（パナソニック(株)）、寺田専門委員（日本放送協会）、
 内藤専門委員（(株)KDDI総合研究所）、西田専門委員（日本放送協会）、
 廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、深澤専門委員（(株)TBSテレビ）、
 藤井専門委員（日本放送協会）、山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課
 西室技術企画官、川崎補佐、高橋係長、飯塚官

【配布資料一覧】

資料 放-46-1	放送業務委員会（第45回）議事概要（案）
資料 放-46-2	2022年9月ITU-R SG6、各WP、TG6/1会合の概要
資料 放-46-3	<u>放送業務WGにおける検討結果</u>
資料 放-46-4	<u>外国寄与文書審議表（案）</u>
資料 放-46-5	<u>日本寄与文書（案）</u>
資料 放-46-6	<u>ITU-R SG6、各WP、TG6/1会合への対処方針（案）</u>
資料 放-46-7	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-46-8 （参考資料）	国際電気通信連合（ITU）2023年世界無線通信会議 （WRC-23）の議題一覧（第146回情報通信審議会情報 通信技術分科会資料一部抜粋）
資料 放-46-9 （参考資料）	放送業務委員会構成員名簿
資料 放-46-10 （参考資料）	2022年3月ITU-R SG6会合後に承認された勧告等

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-46-1「放送業務委員会（第45回）議事概要（案）」に基づき、第45回放送業務委員会の議事概要が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省HPに掲載することとなった。

3. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合への対処

3.1. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要

事務局より、資料 放-46-2「2022年9月ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合の概要」に基づき、次回の会合について説明が行われた。

3.2. 外国寄与文書への対処案

西田専門委員（放送業務WG主任）より、資料 放-46-3「放送業務WGにおける検討結果」及び資料 放-46-4「外国寄与文書審議表（案）」に基づき、外国寄与文書の審議表案が説明され、案のとおり承認された。今後提出される外国寄与文書への対処については、審議表案を作成してメールにて審議を行うことが主査より提案されて承認された。

3.3. 日本寄与文書案

西田専門委員より、資料 放-46-3「放送業務WGにおける検討結果」及び資料 放-46-5「日本寄与文書（案）」に基づき、日本から提出される予定の寄与文書案が説明され、質疑の後、それぞれ案のとおり承認された。質疑の概要は次のとおり。

【A1 レポートITU-R BT.2485改訂案 デジタル地上テレビジョン放送の拡張のための ネットワーク設計高度化および伝送方法】

都 竹 主 査： 低遅延について提案しているが、これをどういう場面で使うのか。緊急情報で使うのは分かるが、遅延を数百ミリ秒から数ミリ秒に短縮することの有効性とはどれくらいあるのか。時刻は正確に送れるとは思いますが、重要度は高くないと思われる。どのような使い道を想定して開発しているか。

西田専門委員： 視聴者側が感じる差は小さいかもしれないが、スタンバイ状態の受信機を一刻も早く起動して、視聴者に注意喚起するなどの使い方は想定できる。一方、5Gなどは数ミリ秒の低遅延が謳われている。低遅延のものが実現できるというのは意味があると思う。今後有効な使い方については検討の余地がある。

【B1 音声オブジェクトを用いた先進的音響システムの所要ビットレート】

浦野専門委員： 勧告ITU-R BS.1548に所要ビットレート値を記載するための議論の呼び水としての寄与と理解している。レポートITU-R BS.2493の実験、NHKの実験、情報通信審議会の

高度化作業班で報告のあった音声符号化の実験の結果がそれぞれ書かれているが、例えば Mono の所要ビットレートに若干のブレがある。今回はどれにするという議論ではないと思っているが、所要ビットレートを求める際に混乱なく、新たに日本で負担のない形で所要ビットレートをまとめて欲しい。

西田 専門委員：ご指摘の通り 3 つの実験結果を報告しようとしている。音源が異なっているなどのため、必ずしも所要ビットレートがいつも同じ値になるとは限らない。今回日本から提供できる情報は提供するが、ぜひ他国でも同様の実験をしてもらって、結果を付き合わせて皆が共通の認識のもとで合意できる値を勧告に記載したいと思っている。

【B2 勧告ITU-R BT. 2075 およびレポートITU-R BT. 2267 の改訂提案「IBB システム」】

都 竹 主 査：放送非依存マネージドアプリケーションとは、放送が選択されていない状態で動作するマネージドアプリケーションのことだと思うが、インターネットの画像を見て、放送を選択していない状態で、ネットからシームレスに放送に誘導するアプリケーションという理解でよいか。

西田 専門委員：誘導ということではなく、あくまでも視聴者が放送と通信から来るものを意識することなく、伝送路を抽象化して自由に番組を選択できるようにするものである。視聴者が番組を選択するのであって、勝手に見ているものが変わるわけではない。

下地 専門委員：ハイブリッドキャストの放送非依存マネージドアプリケーションの規定を入れ込むということには異論はないが、国とか地域で考え方が異なるかと思う。他の方式との比較表も記載されているが、今後整合性をとっていくのか、それとも方式依存とするのか。

西田 専門委員：比較表では名前が微妙に違ったりするが、内容的には同じようなものと理解してもらってよい。ITU-R の勧告・レポートについては技術的なソリューションを紹介するにとどまっているため、それをどう使うかを制約することにはならないと思っている。レポートの中には様々なユースケースが記載されている。今後それぞれどう活用するかはそれぞれの国や事業者のアイデアとして提供してほしい。今回は日本の事例を知ってもらおうという趣旨である。

【BC 新レポートITU-R BT. [CLOUD] 草案に向けた作業文書 番組制作におけるクラウドコンピューティングの使用】

浦野 専門委員：SG6 ではまだ具体的には形になっておらず、日本が新たに提案するということが。今回は番組制作の部分を中心に入力するものだと思うが、クラウドの応用事例としてはクラウドマスターなど WP6B 寄りのアイテムもいろいろあると思う。今後どのような形でレポート化されるのか興味がある。今後の方向性について分かっていることがあれば教えてほしい。

西田 専門委員：これまで WP6B、WP6C ではクラウドコンピューティングについての研究・寄与はなかった。放送のコアネットワークの議題は関係しなくもないが、クラウドベ

ースではない。レポートをつくるのは WP6B の役割と考えているが、番組制作に使われるものなので WP6C にも入力して意見を吸い上げ、WP6B でレポート化したと考えている。現状はフジテレビジョンの提案なので具体事例も同社のものにとどまっているが、他の国内の事例、クラウドベースマスター、各国の取り組みなど、どういう要件があるのかも含めてまとめ上げていけるとよい。

【G3 レポートITU-R BT. 2420-4 の改訂提案「先進的没入・体感メディアシステムのユースケース集」】

都 竹 主 査 : 先般の NHK 技研公開では、ここに示されているような放送の技術革新を体感した。

3.4. ITU-R SG6、各 WP、TG6/1 会合への対処方針案

事務局より、資料 放-46-6「ITU-R SG6 及び各 WP 会合への対処方針（案）」に基づき、会合への対処方針案が説明され、案のとおり承認された。

4. その他

今後のスケジュール

事務局より、資料 放-46-7「今後のスケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールが説明された。